



Sr.池崎の

ブラジルから

Boa tarde!

(ポア ターラジ! : こんにちは!)

第8回目 9月7日(火)~9月11日(土)までのレポート

ブラジル研修後半スタート

後半戦のブラジル業務は、マリンガ市を拠点にしながら、近隣市にあるパラナ州内教育事務所・各市事務局・学校を訪問する予定です。

9月7日独立記念パレード

ブラジル到着の翌日は、ブラジルの独立記念日で祝日でした。マリンガ中心部で独立記念パレードがあるとのことで、パレード見学をしました。1822年にポルトガルから独立し、200年足らずの若い国ということになります。パレードをし、みんなで独立をお祝いしようというイベントです。

パレードには、軍隊・各種団体が隊列を組んで行進していました。沿道には観覧席も設けられ、その中心部には市や軍などの役職者が整列してパレードを見守っていました。1時間半ほど、様々な団体がパレードしていましたが、中には、クラシックカーの愛好者や馬に乗った団体などもあり、見ている沿道の人たちを楽しませてくれるものでした。



8日マリンガ・州教育事務所

8日から、業務開始です。約1ヶ月の予定変更のため、変更した計画がスムーズに開始できるか不安でしたが、早速、マリンガにある州教育事務所を訪問することができました。

この日は、週1回の全体ミーティングの日でした。ミーティングでは、2項目について、情報交換を行いました。一つ目は、牛乳配布の取り組みについてです。これは、貧しい地区の子ども達の栄養不足解消のために7年前から行われており、子ども達の栄養管理や精神的な健康管理にも役立っているとのことでした。戦後の栄養不足解消を目的に給食が開始された、戦後日本と状況は似ているのかもしれないと思いました。二つ目は、マリンガ事務所地域内で行われた研修についての報告です。この研修は、9月1日～3日まで3日間にわたり800人の教員・事務職員・校長が受講したそうです。先生方の質向上を目指し、パラナ州でも、多くの研修が開設され、その企画運営を州各事務所が担当し、かなりの成果を上げているそうです。日本以上に教師の質の向上が叫ばれているブラジルにとって大変大切なことだと思いました。



二つの情報交換の後、私の方から申し出て、日本の学校制度と学校生活について説明させて欲しいと依頼しました。クリチバの州評議会で行ったものと同じ内容のものを皆さんに紹介しました。ここでも、前回同様かなりの反響があり、説明後は、絶えることない質問攻撃で、皆さんの関心の高さを感じました。特に、掃除について、いろいろな難しさもあるとは思いますが、モラル教育の一環として是非取り入れて欲しいとお願いしたところ、ほとんどの方が頷いている様子に、本当にがんばって取り入れて欲しいと思いました。

9月9日 ガルトン ヴィティガル学校訪問

今日は、マリンガ市中心部にある大規模校を訪問しました。クリチバでもいくつかの学校を訪問しましたが、いずれも市立の学校ばかりで、州立の学校を訪問するのは、今回が初めてです。そういう点でも、大変興味がありました。



今日の訪問校は、小学校4年生～高校3年生、そして専門学校生も学習するという大規模な学校で、午前・午後・夜間で校舎を使っています。そのうち、小学校4年生～高校3年生は午前と午後で、児童生徒数は約2700人、教師数は140人、事務などの職員が32名いるそうです。基本的には地区に住む児童生徒を受け入れていますが、他地区からこの学校を希望して登校している子も多く、そういう点では良い生徒の多い学校であるといえます。



まずは、授業風景ですが、私たち参観者が教室を覗くと、直ぐに授業は中断され、人なつっこいブラジレイロたちが笑顔満点で迎えてくれました。小5のクラスで「学校は好きか」と尋ねたところ全員が笑顔で楽しいと答えていました。「帰宅後(午前で終わりなので)何をするか?」には、「遊ぶ」「スポーツクラブ」「寝る」「勉強」など様々でしたが、一番多かったのは「TVゲーム」でした。中2のクラスでは、あえて質問はせず、授業をそのまま続行してもらいました。特別な教材がなく教師が一方的に話をし、子ども達は受け身の授業でしたので、「真剣なまなざしで」といえるほどではなかったですが、落ち着いた雰囲気の中で歴史の授業が行われていました。

施設的には、理科室などの備品、図書蔵書などどれを見てもこれからの整備の必要を感じました。また、廊下を歩くと右写真のように完全に壁状態で、教室の中は見えず、寒々とした感じがし、逆に教室は閉塞感のためか室内の広さも狭いように感じました。



授業参観の合間の放課に、職員室を覗かせてもらいました。狭い空間の中に約50名の先生方がコーヒーを飲んだりお菓子を食ったりしていました。職員室というより、休憩室です。私が入ると、先生方から、日本の子どもの質は良いと聞くがどうしてか?先生方の給料は?日本の留年は?など、矢継ぎ早に質問がありました。これらの質問攻勢は、やはり、教育に対する関心がかかなり高いからだと強く感じました。日本でも、教師たちは、楽しい学校・楽しい授業を作るために、研修を積んでいるという話で回答の最後を締めさせてもらいました。



9月10日 マリンガ地域教育事務所校長会議

今日は、マリンガ地域教育事務所校長会議にて、日本の教育制度と日本の学校についての説明をしました。今日の会議出席は昨日急きょ決まりました。9月8日に、マリンガ地域州事務所にて同様の説明をしましたが、その内容を、ぜひ、多くの校長先生にも聞いてもらいたいという事務所長さんの発案で、昨日依頼されました。

本会議には、マリンガ地域（マリンガおよびマリンガ周辺24市）の地区代表者と92校の校長先生が出席する会議で、豊橋で行われている校長会議に相当します。毎月1回、事務所と校長先生方ならびに各市の代表者との連絡並びに情報交換を行っているそうです。

毎回同様、私の説明後、質疑応答の時間をとりましたが、絶え間ない質問に、打ち切るタイミングをとることができない位でした。質問内容は

- ・ クラスの人数
- ・ 子ども達の学習評価の仕方
- ・ 留年について
- ・ 生徒の態度や暴力行為への対応の仕方
- ・ 先生方の勤務時間と授業時数
- ・ 先生方と校長先生の給料
- ・ 校長になるシステム
- ・ 教師の定年
- ・ 1年間の授業日数
- ・ 教務担当の仕事
- ・ . . .

などがありました。最後には、私がこれまで見てきたパラナ州の教育についての感想も求められました。毎回思うことですが、矢継ぎ早の質問に、校長先生方の興味関心の高さを痛感しました。また、私が用意したパワポイント（日本の学校制度と学校生活）をデータとして欲しいという依頼も受け、日本の教育について多くの方に知ってもらう良い機会を得ることができました。



午前の部後半に、来年度の入学手続きに関する変更点の説明が事務所の担当からあり、一緒に聞かせてもらいました。説明の中で気になったことは、子どもたちは、基本的に地域の学校に登校しますが、保護者に希望があり、その希望校に座席の空きがあれば、保護者の希望校へ登校することができるということです。つまり、学校選択制を一部取り入れています。さらに、ブラジルでは、午前・午後の2部制があるため、その入学システムはさらに複雑になります。そのためか、担当者の説明が終わった後も、多くの質問がありました。もしも、日本からの転入があった場合も上記同様で、基本的には居住地区の学校に編入することになり、保護者の希望がありその希望校に座席の余裕があれば希望校に編入することができます。ただし、逆に、居住地区の学校に座席の余裕がなければ、たとえ居住地区の学校に行きたくても編入することができないそうです。



マリンガ文化祭(10日)と朝市見学(11日)

10日夜に、急きょ、マリンガの ACEMA (文化体育協会) が中心になり開催している日系社会の文化祭を見に行くことになりました。

会場には、特設ステージが設けられ、入場時には、日系のプロの歌手のショーが行われていました。同時に、会場内には様々な展示会場、販売店、食事ができる店舗が並んでいました。展示会場には、日本文化を紹介するような盆栽、作品、写真などが展示してありました。また、習字体験コーナー(右写真)や



折り紙体験コーナーもありました。折り紙体験コーナーには、折り紙や小物で作ったリオのカーニバルの様子を表現した作品も置いてありました。マリンガに住む日系の方々も、団体会でカーニバルに参加したことがあるそうです。特設ステージ前には、盆踊りの櫓も組まれていました。11時過ぎの各展示会場が閉ま

るところから祭りが最高潮になり、特設ステージと盆踊りの櫓の周りに大変多くの若者たちが集まり、日本のポップな曲にあわせてエネルギッシュに踊りはじめました。さながら、盆踊り会場でディスコっていう感じでした。現代風な雰囲気を作ることで、若者にも日系文化を継承する場を作っているのだと思いました。クリチバでの移民祭りとは異なる日系文化継承の機会を見ることができました。



11日午前中に、中心部北で行われている朝市を見学しました。黄色いテントが数多く張られ、テント内には主に農作物を中心に販売されていました。この市でテントを出している人は、新鮮感覚を売りに、自分が栽培したものを販売しているそうです。ですから、市民の方々も、より新鮮な野菜などを求めて朝市に

訪れるそうです。右写真で野菜を購入している方は、マリンガ滞在中大変お世話になっている植田さんです。市では、野菜の他に、果物、その果物を利用した生ジュース、卵などの店が多く出ていました。毛色の変った店として、自家製のウインナーを使ったホットドックや PASUTEL (油で揚げたアップルパイのようなもので、中にはかわりに、肉・チーズが入っているブラジル特有の snacks) を販売している店もありました。



左写真の真ん中(木の向こう)にとんがったタワーがあります。これは、市中心部にある教会で、マリンガ市のどこからも見えるように高さのあるタワーを造ったそうですが、ここからも見る事ができました。(実際には、高層ビルが乱立し、どこからも見る事ができる状態ではなくなっています。)